

2020年度
第3回 清流環境作文コンクール
受賞作品集



さくらちゃん



けん
と
健人くん

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会



受賞作品集

神通川清流環境賞

第3回清流環境作文コンクール部門受賞作品集発刊にあたり

一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 高木 勲 寛

イタイイタイ病裁判勝訴により患者救済と汚染農地の復元、そして富山平野を潤し豊かな稔りを齎す神通川に清流が甦る活動を続けて今年50年。50回目の神通川流域作文コンクールへの立入調査を迎えます。

2013年(平成25年)12月17日富山県知事の立会の下、当被害団体と三井金属鉱業及び神通川流域環境賞を創設しました。清流環境作文コンクールはその中の一つです。

イタイイタイ病の惨劇と神通川の清流を甦らせた史実を風化させないことを念じて全面解決を機に神通川清流環境賞を創設しました。清流環境作文コンクールはその中の一つです。令和2年度は当初より新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策による経験をしたことのない生活を余儀なくされ不安な日々を過ごすことになりました。その中で第3回清流環境作文コンクールへのご応募を願います。足るべく県下の全小学校へ郵送などの形で「要項」をお届けしましたが、「休校」等による学習時間の不足を補うための各学校の教育環境が大変革であったにも拘らず31の小学校から1187点のご応募を頂きました。

コロナ禍の中、校長先生をはじめ担当の先生方のご理解ご協力に衷心より深く感謝を申し上げます。ご応募頂きました作品には命の尊さ、食物の大切さ、自然について、そして環境についても、感性豊かな小学生の目線で書いて頂きました。

審査委員会では新しい生活様式の中、工夫されながら9名の先生方(別記)に慎重に審査を重ねていただき入選34点を作品集として発刊することが出来ましたことに感謝申し上げます。

受賞作品集は今回も富山県下の全小学校へお届けすることとしております。2月27日(土)に計画していました表彰式を昨年に続き新型コロナウイルス感染防止の観点から中止することとなったことを大変残念に思っています。

コロナの終息を念じ令和3年4月以降に第4回の応募を実施することとしておりますので趣旨にご理解ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

審査講評

第3回清流環境作文コンクール審査委員長

富山国際大学子ども育成学部客員教授 水上義行

第3回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。審査委員会を代表しまして講評をさせていただきます。

今年度の第3回作文コンクールの応募期間を、令和2年7月1日から10月20日にかけて設定し、富山県内の小学校にご案内をさせていただきました。その結果、応募いただいた学校は、39校に上り、応募総数1187点の素晴らしい作文を届けていただきました。コロナ感染の恐れから、授業時数等の確保が難しい中で、応募いただきました児童の皆さんには、厚く御礼申し上げます。また、新規に応募いただいた小学校が11校あり、これまでに県内小学校177校中、72校の小学校に応募いただきました。重ねて御礼を申し上げます。

審査委員会といたしましては、1次から3次までの厳正な審査を行いました。審査の観点としては、次の4点を基軸にいたしました。

- (A) イタイイタイ病に関する内容を含んでいるか。……清流環境歴史賞
- (B) 自然・環境に関する内容を含んでいるか。……清流環境体験賞
- (C) 生き物・命に関する内容を含んでいるか。……清流環境科学賞
- (D) がんばって応募してくれた学校・学級であるか。……清流環境奨励賞

令和3年は、イタイイタイ病裁判勝訴50年の節目を迎えています。私たちの命と暮らしを守る清流環境の維持は、イタイイタイ病を契機にした、先人のたゆまぬ努力によって、多くの人々の心に響き、様々な活動に結び付いています。

応募された作文からは、豊かな自然・社会環境の持続・発展を願う、子ども達の熱い気持ちが伝わってきます。また、家庭や学校、社会の懸命な取り組み事例が、子ども達によって紹介され、私たち大人の進むべき方向を考えさせてくれました。

その中で、今回受賞されたいずれの作文も、自らの調査・観察・体験に基づき、学年に応じたその子らしい表現で綴られていました。

受賞作品集は、第1回、2回に引き続き、県内各小学校に配布する運びとなりました。作文学習の見本としてご利用いただき、子ども達の作文力向上にご役立てただければ幸いです。

終わりになりますが、第3回清流環境作文コンクールに、様々なご配慮を頂きました関係各位に厚く感謝申し上げます。

作文コンクール受賞者一覧

清流環境体験賞										清流環境歴史賞										賞名					
中学年部門					低学年部門					高学年部門					中学年部門					低学年部門					部門
佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	賞				
山本 芽依	橋本 詩絵	山崎 雅将	谷口 陸	石原 悠希	成瀬 太一	樋口 和羽	城岸梨央花	米沢 優志	山崎 怜也	宮本 憩	宮田 藍璃	藤森 袖月	近堂 友紀	池田 花梨	三輪 泰我	澤田 莉空	該当なし	今牧 義耀	島田健太郎	黒田 唯心	氏名				
富山市立鶉坂小学校	高岡市立定塚小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	射水市立太閤山小学校	氷見市立窪小学校	富山市立熊野小学校	滑川市立西部小学校	南砺市立利賀小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立宮野小学校	富山市立草島小学校	富山市立立鶉坂小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	富山市立速星小学校	富山市立速星小学校		射水市立小杉小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	砺波市立砺波北部小学校	小学校名				
4年	4年	3年	3年	4年	3年	1年	1年	2年	1年	1年	5年	5年	5年	5年	4年	4年		1年	2年	2年	学年				
地球温暖化を止めないとノ	自然の働き	じん通川について考える	ぼくの大すきな場所	大好きな氷見の海を守るため	山や海での活動を通して感じたこと	ばいにかさんとごみひろい	おいしくそだったわたしのピーマン	黒べのわき水	あんしんなブルーベリー	なすをそだてたよ	イタイイタイ病を知って	イタイイタイ病を調べて	清流を取り戻した神通川	「イタイイタイ病ってこわい」	美しい神通川へ	富山をおそったイタイイタイ病		イタイイタイびょうについて	イタイイタイびょうを知る	イタイイタイびょうについて思ったこと	題名				
50	48	46	44	42	40	38	36	34	32	30	26	24	22	20	18	16		14	12	10	ページ				

清流環境科学賞										清流環境体験賞					
高学年部門					中学年部門			低学年部門			高学年部門				
佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	
宮田 侑奈	南田 陽祐	辻 奏	今川 絢寧	該当なし	富永 蓮生	河西 雅心	本保 萌衣	角谷 春葵	山藤 実苑	松田 明莉	高堂 柊水	松木 英美	安積 悠翔	山本 佳歩	該当なし
富山市立宮野小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立宮野小学校	富山市立速星小学校		高岡市立定塚小学校	富山市立四方小学校	高岡市立定塚小学校	富山市立芝園小学校	富山市立山田小学校	富山市立山田小学校	富山市立山田小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立藤ノ木小学校	射水市立太閤山小学校	
5年	6年	5年	6年		4年	4年	4年	1年	1年	1年	1年	5年	6年	6年	
水俣病について考えたこと	世界の水の安全性について	環境問題について考えよう	身近な水と食の大切さ		世界の川や川にいる生き物	畑から来たすてきなお客さん	水のせいしつ	ストップ・ザリガニノ	つばめ	たぬきのあかちゃん	カナヘビ	生き物の気持ちも考えて	イタイイタイ病を学び、考えたこと	立山の自然にふれて考えたこと	
80	78	76	74		72	70	68	66	64	62	60	56	54	52	

清流環境奨励賞 ◆学校賞・学級賞

学級賞		学校賞	
富山市立草島小学校	富山市立草島小学校	富山市立草島小学校	富山市立草島小学校
富山市立新庄北小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立新庄北小学校
富山市立堀川小学校	富山市立堀川小学校	富山市立堀川小学校	富山市立堀川小学校
富山市立太田小学校	富山市立太田小学校	富山市立太田小学校	富山市立太田小学校
富山市立熊野小学校	富山市立熊野小学校	富山市立熊野小学校	富山市立熊野小学校
富山市立新保小学校	富山市立新保小学校	富山市立新保小学校	富山市立新保小学校
富山市立速星小学校	富山市立速星小学校	富山市立速星小学校	富山市立速星小学校
富山市立鶉坂小学校	富山市立鶉坂小学校	富山市立鶉坂小学校	富山市立鶉坂小学校
富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校
富山市立山田小学校	富山市立山田小学校	富山市立山田小学校	富山市立山田小学校
富山市立五福小学校	富山市立五福小学校	富山市立五福小学校	富山市立五福小学校
射水市立金山小学校	射水市立金山小学校	射水市立金山小学校	射水市立金山小学校
高岡市立定塚小学校	高岡市立定塚小学校	高岡市立定塚小学校	高岡市立定塚小学校
南砺市立利賀小学校	南砺市立利賀小学校	南砺市立利賀小学校	南砺市立利賀小学校

◆応募学校一覧

滑川市	滑川市立西部小学校		
立山町	立山町立立山中央小学校		
舟橋村	舟橋村立舟橋小学校		
富山市	富山市立四方小学校	富山市立八幡小学校	富山市立藤ノ木小学校
	富山市立水橋東部小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立堀川小学校
	富山市立熊野小学校	富山市立新保小学校	富山市立上滝小学校
	富山市立鶯坂小学校	富山市立宮野小学校	富山市立山田小学校
	富山市立呉羽小学校	富山市立芝園小学校	富山市立五福小学校
			富山大学人間発達科学部附属小学校
射水市	射水市立放生津小学校	射水市立堀岡小学校	射水市立金山小学校
	射水市立太閤山小学校	射水市立大島小学校	
高岡市	高岡市立福岡小学校	高岡市立定塚小学校	高岡市立下関小学校
	高岡市立戸出西部小学校	高岡市立中田小学校	
氷見市	氷見市立宮田小学校	氷見市立窪小学校	
小矢部市	小矢部市立大谷小学校		
砺波市	砺波市立砺波北部小学校		
南砺市	南砺市立利賀小学校		

◆審査員一覧

水上 義行 富山国際大学子ども育成学部客員教授

仲井 文之 富山国際大学子ども育成学部教授

瀬戸 健 富山国際大学子ども育成学部教授

宮城 信 富山大学人間発達科学部准教授

鈴木 敬子 元射水市立作道小学校長

安元 恵子 元高岡市立東五位小学校長

牧野 宇子 元富山市立四方小学校長

城岸 毅 元南砺市立井波中学校長

河田 新子 元射水市立放生津小学校長

◆後援団体一覧

富山県教育委員会 富山県小学校校長会 富山県小学校教育研究会 富山県PTA連合会

The background features several overlapping, wavy, light gray lines that create a sense of movement and depth. These lines are centered horizontally and extend across most of the page width.

清流環境歷史賞

低学年部門

最優秀賞

イタイイタイびょうごついで
思ったこと

砺波市立砺波北部小学校 二年

黒田^{くろだ} 唯心^{ゆみ}

私は、家ぞくでイタイイタイびょうごついでようかんに行きました。

そこにあつたしゃしんには、体がまがった小さいおばあちゃんが、ないているような顔でねていました。

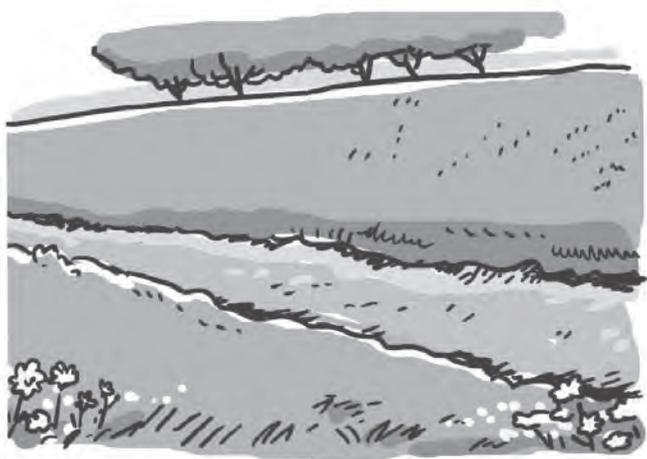
見ていると、私もなきたい気持ちになりました。せきをしたり少しいただけで、ほねがおれてしまうイタイイタイびょうごついでです。げんいんは、ぎふけんのかみおかこう山から、と山けんのじん通川にカドミウムがながれてきて、水がよごれ、その川の水でそだったお米や魚を食べて、イタイイタイびょうごついでになったと知りました。

私がつんでいる場しよは、おやべ川としょう川の間にあります。家ぞくで川を見ながら、おべんとうを食べることが好きです。どうしてかという、楽しい気持ちになるからです。きっと、じん通川の近くにすんでいた人たちも川が好きで、川を見たり魚をとったり、大切にしていたと思います。

お父さんが、かみおかこう山のカドミウムがながれた場しよに、つれて行ってくれました。山の中をどんなのぼり、とても遠いところでした。こんなにも遠

くて長い川から、カドミウムが、ながれてきたことに
びっくりしました。

川は、山や町や海にも、人の生活にもつながってい
ることに気がつきました。だから、私たちの大切な川
がよごれないように、どうやってまもっていけばいい
のか、みんなで考えていきたいです。



低学年部門

優秀賞

イタイイタイびょうを知る

富山大学人間発達科学部附属小学校 二年

島田^{しまだ} 健太郎^{けんたろう}

「イタイイタイびょうってなあに？」

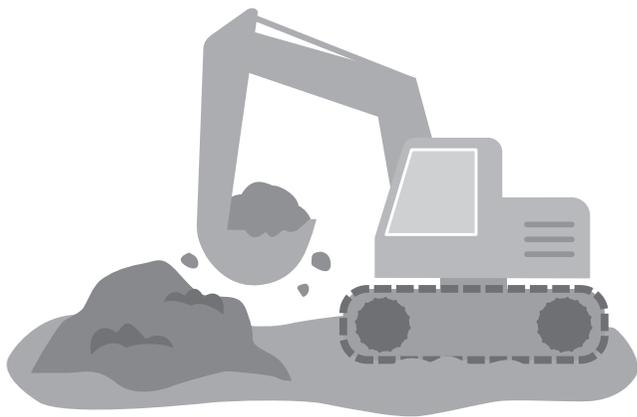
と、お母さんに聞くと、しりょうかんがあることをおしえてくれて、行ってみることにしました。

はじめに見たのは、川でやさいをあらっている、おばあちゃんのもけいです。もけいの前にあるボタンをおすと、むかしの人は、のみ水やせんたくに、川の水をつかっていて、その水にカドミウムがまざって、イタイイタイびょうになったことがわかりました。そして、このびょうきになると、はりを干本さすようなたみがあることを知り、なんてこわいびょうきだろうと思いました。

つぎに、このイタイイタイびょうをけんきゆうするおいしやさん、川をきれいにするためにがんばって人がいたのを知りました。よごれた水のしよりをてきせつにしたり、おせんされた土をうめる工じをしたり、木をうえたりしたそうです。このおかげで、みんな

なが、あん心して生かつができるようになったのだと思いました。

ぼくは、今のきれいな川をとりもどしてくれた人たちのためにも、川はよごしたくないです。なので、海や川のゴミひろいをしたいです。そして、きれいな水を大切にしたいです。



低学年部門

佳作

イタイイタイびょうじつて

射水市立小杉小学校 一年

今牧 いままき
義耀 よしてる

ぼくは、イタイイタイびょうじつてというびょうきを、イタイイタイびょうじつていうかんに行つて、はじめてしました。

しりょうかんに入ると、えいぞうやせつめいを、お父さんといっしょに見ました。お姉ちゃんとクイズも

とききました。イタイイタイびょうじつてが、どんなびょうじつてかわからずにやっていたけど、すすんでいくうちに、わかつてきました。

イタイイタイびょうじつては、いちどかかると、びょうじつてがはなれない、とてもこわいびょうじつてで、げんいんが、ぜんぜんわからなかったそうです。どうしてイタイイタイびょうじつてという名前がついたかという、イタイイタイびょうじつてにかかったひとが、なんども、「イタイ、イタイ」というからだそうです。それをきいて、つらそうだと思います。

ぼくは、家でメダカ、ザリガニ、バッタを飼っています。メダカやザリガニのために、水草をさがすのですが、なかなかなくて、おかあさんが、「昔はいっぱいあったのに」と言いました。ねいの里にいったときには、きれいなところで育つ水草が、へつていと書いてありました。小杉小学校では、お兄ちゃんたちが、

水そうで水草をそだてています。その中にはめずらしい水草もあるそうです。

いきものがあんしんしてくらせるようになれば、ぼくたちもあんしんしてくらせます。そうなればよいなと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

富山をおそったイタイイタイ病

富山市立速星小学校 四年

澤田^{さわだ} 莉空^{りく}

ぼくは、富山県にあったイタイイタイ病が、どんな病気が知りたかったから調べました。

イタイイタイ病は、大正から昭和二十年代にかけて、富山県のかん者の人たちは体中がはげしく痛み、「イタイ、イタイ」と苦しんだことから、この名が付けら

れました。

この病気の原因となったのが、神通川上流にある神岡鉱山から流れ出た、「カドミウム」という金です。カドミウムは、川や農地を汚せんし、水や米をとり続けた人たちに、病気が広がっていきました。

病気にかかりやすかったのは、おもに、三十五才以上の子供を産んだことのある女の人です。始めは、こしやかた、ひざなどが痛くなり、さらに病気が進むと、少し動いただけでも、すぐに、ほねが折れてしまうようになりました。こうしたしょうじょうは、カドミウムが人の体に入ると、じんぞうの働きが悪くなり、強いほねが、作られなくなってしまうために、おきると言われています。

ぼくは、イタイイタイ病を調べて、二つのことを考えました。一つ目は、なぜ三十五才以上の子供を産んだ女の人がかかりやすいのかを考えました。きっと、

子供を産んだ女の人は、体が弱っているからではないかなと思います。

二つ目は、鉾山から出てくるカドミウムを、どうして止めることができなかったのか、ということですよ。

ぼくは、二つの仮説を考えました。一つ目は、もしかしたら、カドミウムは、体に悪いということを知らなかったこと、二つ目は、カドミウムが神通川に入っていたことを知らなかったから、イタイイタイ病が広まっていったんじゃないかなと考えました

川は、人々の生活に、とても大事な物なんだなというところが、よく分かりました。

なので、ぼくもかんきょうを守って、きれいな自ぜんをたもっていききたいです。

このことから、昔は、いろいろなことを調べようと思っても、調べる方法がなかったのではないかと思ひます。今は、ぼくたち子供でも、わからないことがあ

ると、辞書やコンピュータ、テレビ、新聞などでぐに情報を知ることができます。今は、とてもべんりな世の中に、ぼくは生活することができてとても幸せです。



* 中学年部門 *

佳作

美しい神通川へ

富山市立速星小学校 四年

三輪 みわ 泰我 たいが

昔、ぼくの住む婦中町に、おそろしい病気がありました。それは、イタイイタイ病という病気です。

その病気が流行ったのは大正時代で、原因は、神通川の上流にある神岡鉱山からおせん物質のカドミウムが流れ出たからです。イタイイタイ病という名前は、

かん者さんが、「痛い痛い。」と言っていたことから名づけられました。病気にかかるのは、三十五才以上の女の人が多かったそうです。カドミウムが体に入ると、じんぞうを悪くしたり、骨が折れたりして、弱い苦しみ、なくなる人たちが多かったそうです。

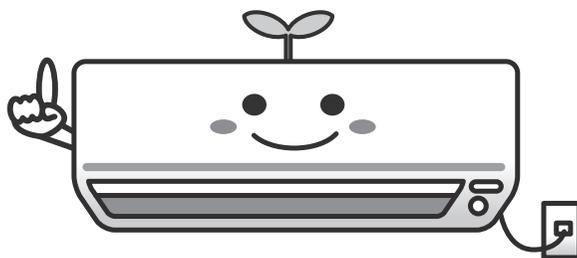
今の神通川は、夏には、あゆをつる人たちがたくさんいます。あゆがつれるほど、この神通川は、美しい川と言えます。だから、このおそろしい病気があったと知って、しんじられませんでした。

多くの人が苦しんでいたこの病気ですが、たくさんの人たちの力で、解決することができました。まず、昭和三十年ごろ、はぎ野医師が、十年もかけてイタイイタイ病の原因が、カドミウムであることを調べ、新聞の記事になりました。また、さい判で、「病気のほしょう」と、「二度と公害を起こさないこと」と、「おせんされた土を直すこと」をやくそくすることができ

ました。

ぼくたちの住む町には、大きな店や空港、植物園、陸上競技場などがたくさんあります。また多くの土地は土が入れかえられていたことを知りました。それに、昔の人は、水道がなくて、川の水を使って野菜を洗ったり、飲み水にしたりしていて、それが病気の原因になりました。今は、じょう水場があって、家から出る水などもきれいにされて、おいしい飲み水に変わって、じゃ口からきれいな水が出てきます。今の生活があるのは、昔の人たちの、最後まであきらめない気持ちのおかげだと思います。

ぼくは今、そう合的な学習の時間で、かんきょう問題について勉強しています。実際に、エアコンの温度を二十八度にせっ定したり、ゴミ拾いをしたりしています。これからも、まずは、身近なことから取り組んでいきたいです。



* 高学年部門 *

最優秀賞

「イタイイタイ病ってこわい」

富山大学人間発達科学部附属小学校 五年

池田 いけだ
花梨 かりん

みなさんは、イタイイタイ病を知っていますか？

私は、日本四大公害病ということと、名前と、富山県でおきたことしか知らなかったのので、イタイイタイ病資料館に行ってみました。私が一番感じたのが、「イタイイタイ病ってこわい」ということです。特に、

こわく感じた点が二つあります。

一つ目は、体がまるつきり変わってしまうことです。

イタイイタイ病の原因であるカドミウムは、腎臓を悪くさせます。腎臓にカドミウムが入ると、骨がもろくなったり、筋肉が縮んだりしてしまうのです。

私は、資料館で不気味な写真を見つけました。イタイイタイ病になった人と、健康な人の骨の断面図です。なんと、イタイイタイ病の人の骨は、とてもスカスカでした。これを見て、私は、カドミウムだけでこんなに体が変わってしまうなんて、おそろしいと思いました。

二つ目は、「身近で起きた」ということです。神通川の下流で起きたのは、前から知っていましたが、資料館のイタイイタイ病分布図を見て、私の家がぎりぎり入っていない所だったと分かりました。あと一キロメートルでも川に近かったら、イタイイタイ病になっ

ていたのだと思います。それを考えると、私はおどろきがかくせませんでした。

さらに、こわさを増させたのが、つい最近、やっと、イタイイタイ病の対策が、終りようしたということとです。汚染された土の工事の面積は、なんと、約六千六百ヘクタールもあります。とても時間がかかったと思います。気になって調べてみると、主に四つの工程で行なわれていました。まず、汚れた土をけずり取り、下の層から耕盤土をほり上げ、みぞを作り、そのみぞに、汚れた土をうめて、その上を耕盤土で平たく固めます。その上に、きれいな土を平らに仕上げられるのです。この作業を何度も何度もくり返し、約六千六百八十ヘクタールをやりとげたのです。それだと思ったのが、一度汚染された土は、なかなかきれいにならず、思ったより、土の入れ替えには時間がかかる作業だ、ということでした。でも、それをやりとげた人々

はすごいし、その努力をととても尊敬します。

カドミウムを川に流してしまった、三井金属鉱業の犯した罪は、とても一言では言い表せないほどの、重い罪だと思えます。なにしろ、ひ害者だけでなく、ひ害者の家族までもが仕事やお金をうばわれ、大切な家族に何もできず、死を待たなければならぬという、つらい思いをしたのですから。

その後、三井金属鉱業は、大金を投入して、公害防止に取り組みました。

今も続けられている、住民による全体立入調査、住民の中の専門委員が行う、専門立入調査はいつまでも行ってほしいです。

そして、二度と川の水を汚すようなことが、あつてはいけないと思いました。

* 高学年部門 *

優秀賞

清流を取り戻した神通川

富山市立鵜坂小学校 五年

近堂 こんどう
友紀 ゆき

私は、四大公害病の一つの「イタイイタイ病」が、富山県の神通川の流域で発生した病気であると知り、大変おどろきました。しかも、私が住んでいる地域も関係しているのです、この「イタイイタイ病」について、調べてみたいと思いました。

「イタイイタイ病」は、大正から昭和二十年代にかけて起きた公害病で、かん者が体中のはげしい痛みから、「イタイイタイ」と苦しんだことから、この病名がつけられました。

主に、三十五才以上で、子供を産んだことのある女性が、病気にかかったそうです。この病気のしょうじょうは、まず、こしやひぎ、ひじがいたくなり、その後、少し動いただけでも、すぐに骨が折れてしまうようになったそうです。これは、「カドミウム」という金属が体内に入ると、じんぞうの機能が低下し、強い骨がつかれなくなってしまうために、起きるといわれています。

病気の原因となった「カドミウム」は、神通川上流にある神岡鉱山から流れ出て、川の水を汚染しました。この汚染された川の水を飲み、川の水で育てたお米を食べ続けた人たちに、広がっていききました。

飲み水については、住民の要望により、昭和三十年代後半から四十年代にかけて、水道が整備され、川の水を飲むことはなくなりましたが、川の水でお米を作った田んぼは、カドミウムで汚染されていました。

この汚染された農地は、約千七百ヘクタールにも広がっており、県は、四十年の長い年月と四百億円以上の金額を費やし、平成二十四年三月に、汚染された農地を元に戻す復元工事を完了しました。工事が終わった田んぼで作られたお米は、国が定めたカドミウム濃度基準を大きく下回り、ついに、安全で豊かな大地を取り戻すことができました。

私が住んでいる家の近くの田んぼも、汚染された地域の中にあり、私が生まれる前に、この復元工事が行われたそうです。田んぼの土の色が、ちょっと赤みを帯びているのは、土を入れかえたためということでした。二度と、「イタイイタイ病」を引き起こさないため、

住民は、鉾山や工場から、「カドミウム」で汚染された水が流れ出ていないか調査を行い、また、会社側の改善努力により、現在、神通川は、清らかで安全な流れを取り戻しています。

今、私たちの目の前にある神通川の清流や、田園風景の美しく豊かな自然環境は、地域の宝物だと思えます。もう二度とこのような公害をくり返さず、地域の美しい自然を守り、未来に残したいと思えます。

まず、自分でできることは、小さなことかもしれませんが、ペットボトルなど、ゴミのポイ捨てはもちろん、ゴミ拾い活動などに、積極的に参加したいと思います。

* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病を調べて

富山市立草島小学校 五年

藤森^{ふしもり} 袖月^{ゆつき}

私は、イタイイタイ病を調べて、大正時代頃から発
生し、被害をもたらしていたイタイイタイ病のことを、
たくさんの人に、広く知ってもらいたいと思いました。
そう思った理由が、三つあります。

一つ目は、イタイイタイ病は、病気が進むと、少し

動いただけでもすぐに骨が折れてしまう病気なので、
患者はもちろん、その家族や住民たちも、つらくて苦
しい日々が続いたということを、知ってもらいたいと
思ったからです。

二つ目は、萩野医師の行動が素晴らしいと思えたか
らです。萩野医師は、患者さんを救おうと、十年間も
研究し続けました。その結果、国でも研究が行われ、
イタイイタイ病の原因が、カドミウムであるという結
論が出されました。十年間の研究は、つらくて苦しい
日々もあったとおもいますが、原因をつきとめられた
おかげで、苦しみ、あきらめていた人たちが団結し、
立ち上がったのです。その後、多くの人たちが協力し、
長い年月をかけて裁判で勝利をおさめました。

三つ目は、私が住んでいるところの近くで、とても
身近に感じたからです。私は、以前までイタイイタイ
病のことを全く知らなくて、調べて見て、昔、こんな

つらくて苦しい病気があったということを、絶対に忘れないでいようと思いました。

私は、イタイイタイ病を調べて、もう一つの気持ち
が芽生えました。それは、「感謝の気持ち」です。な
ぜなら、今健康にいらしているけれど、働いてくれて
いる母、父のおかげです。この気持ちも忘れずに、毎
日感謝したいです。「ありがとう」を忘れず、笑顔で
みんなに接したいと思います。

イタイイタイ病は、神岡鉱山から排出された、カド
ミウムという自然界にある金属が体内に入り、じん臓
の働きが悪くなって、強い骨がつかれなくなっていま
うために、引き起こされてきました。そして、骨がも
ろくなり、折れてしまうという公害病です。信じられ
ない人もいるかもしれませんが、ですが、信じられない
くらい、怖くて苦しい病気なのです。しかも、「イタ
イ、イタイ」と泣き叫んで、死に至る方もいました。

私たちは、こうして学んだことを、たくさんの人と
話し合ったり、大人になったら、自分の子どもに話し
たりして、このようなことを忘れないようにすること
が、とても大事だと思います。身近な環境を守るため
に、みなさんも協力していきましょう。



* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病を知って

富山市立宮野小学校 五年

宮田 みやた
藍璃 あいらり

「どうしてこんなことになってしまったのだろう。」

これが、私が真っ先に思ったことである。

私が、イタイイタイ病のことを深く知ったきっかけは、学校での調べ学習だった。四大公害病のどれかを調べる学習だったので、地元で起きたイタイイタイ病

のことを調べることにした。

イタイイタイ病の原因は、神通川の上流にある、神岡鉱山から流れ出た鉱毒の混じった水だと分かった。イタイイタイ病は、「カドミウム」という金属が、人間の体にたまっていき、腎臓のはたらきを悪くするこゝとで起こる病気だ。最初は、こしや肩、ひざなどがいたみ、やがて、針でさすようないたみが全身に広がって、少し動いただけでも、ほねがおれたり、背がちぢんだりして、歩くこともできなくなる。最後には、ねたきりになり、息をするだけでもいたく、ふとんが体にあたっただけで、こっせつしてしまうという。「いたい、いたい」と泣きさげびながら、亡くなっていく cancer が、たくさんいたそうだ。「カドミウム」という金属が、体にたまっていくだけで、こっせつしてしまうなんて、かわいそうだと思った。

このイタイイタイ病を発見するために立ちあがった

のは、萩野昇医師だった。地元で起こる不思議な病気を解き明かそうと、かん者が出た場所の分布や、地域の地形などを調べた。岡山大学の小林じゅん教じゅんたちと共同研究を進めて、一九六一年、ついに、イタイイタイ病の原因が、神岡鉱山の排水から出た、「カドミウム」であることをつきとめたのである。

イタイイタイ病のことを調べて学んだことは、「物事を行うときには、そこに住む人々のことや自然など、周りのことへもしつかりと目を向けることが大切である」ということだ。

毎年、学習発表会で、六年生が、イタイイタイ病について発表しているのを聞いたことはあったが、こんなにしっかりと、自分で調べたことはなかった。イタイイタイ病がはやっていたころは、米を食べないで生活することも、水を飲まないで生活することもできずに、「カドミウム」を体の中に入れてしまう人々がい

たのだと知った。原因は、「カドミウム」で、もっとはやく、神通川に、「カドミウム」が混ざっていると分かっていけば、イタイイタイ病で苦しむ人を、へらすことができたのではないかと思う。

イタイイタイ病を知って、私は、地元でもおそろしい病気がはやっていただなんて、信じられないと思った。イタイイタイ病は、知れば知るほど、信じられないことばかりだ。ほかの公害病もおどろく真実があると思うので、イタイイタイ病以外の公害病も調べてみたいと思う。





清流環境體驗賞

低学年部門

最優秀賞

なすをそだてたよ

南砺市立利賀小学校 一年

宮本 憩みやもと いこい

わたしは、学校のおべんきょうで、なすをそだてました。

「いっぱい、なってほしいな。」とおもって、なえをうえました。名まえを「なっちゃん」と、つけました。なっちゃんのようにすをみながら、水をあげました。

あつ日は、なっちゃんが、「もっと水をのみたい。」といっているようにおもったので、たっぷりと水をあげました。土がしめっているときは、「あまり、いらないよ。」といっているようにおもったので、すこしだけ水をあげました。

そだてていると、はっぱのうらに虫がついていました。ともだちが、

「水でながせばいいよ。」

と、水で虫をながしてくれました。でも、水がたくさんなったので、びょうきにならないかしんぱいになりました。二、三日しても、だいじょうぶだったので、

わたしは、あんしんしました。

なっちゃんが大きくなって、みができたときは、とてもうれしかったです。

いえにもってかえって、マーボーナすにしました。とてもおいしかったです。おかあさんも、「おいしい

ね。」といってくれたので、うれしかったです。

わたしは、なっちゃんのみもちをかんがえながら、
そだてたので、おいしいみのできたのだとおもいます。



低学年部門

優秀賞

あんしんなブルーベリー

富山大学人間発達科学部附属小学校 一年

山崎 怜也

ぼくは、なつやすみに、かぞくといっしょに、ながのけんへブルーベリーがりにいきました。

そのブルーベリーえんには、たくさんのがが、すばやくはねをうごかしてとんでいました。そして、き

のえだとえだのあいだには、くろいがのさなぎが、たくさんいました。ぼくは、ががきらいです。なぜかというと、すばやく、バサバサとぶところがきもちわるいからです。

ぼくは、おかあさんに、「なんでこんなにががいるの？」とききました。するとおかあさんは、「このブルーベリーえんは、がをころすのうやくという、くすりをつかっていないから、ががたくさんいるんだよ。」といました。

ぼくは、ががきらいなので、のうやくをつかえばいいのかなとおもったけれど、がをころすなら、のうやくがついたブルーベリーをたべたにんげんは、どうなるのかなとおもいました。おかあさんにそれをきくと、「のうやくでにんげんはしないけれど、いきものをころすくすりだから、なるべく、たべないほうがあんしんだね。」といました。

ぼくは、このブルーベリーえんは、ががいっぱいい
てこわいけれど、のうやくがつかわれていないなら
ば、あんしんだなとおもいました。おとうさんに、か
たぐるまをしてもらって、きのうえにあるブルーベ
リーをとってたべたら、あまずっぱかったです。



低学年部門

優秀賞

黒べのわき水

富山大学人間発達科学部附属小学校 二年

米沢よねざわ
優志ゆうし

ぼくは、吉田科学かんで、「ウォー太郎と水めぐりの旅」わき水は、どこからくる？の巻」をみました。わき水は、黒べの大じなものだそうです。

わき水は、石やすな、じめんの下をとおって、わき出ています。黒べの人びとの生活に使われています。

市内には、きょう同のあらいばがあり、四だんになっています。一番上は、のみ水で、二番目は、たべものをひやすばしよ、三番目は、しよつきをあらうばしよ、四番目は、せんたくをするばしよです。

しかし、人びとだけに使われているわけでは、ありません。しよくぶつにとつても、大切なものです。どうしてかというと、昔は、杉の木が、いろいろなばしよに、たくさんはえていました。今は、杉沢の沢杉だけになったそうです。かれずに育っているのは、わき水のおかげだからです。

また、小さな魚は、わき水と水草のおかげで、生きていられるそうです。

ぼくは、それを聞いて、わき水は、黒べの大切な宝ものだと思います。

ぼくは、海やわき水をきれいに守っていくために、ゴミをすてていかないようにしたいです。みんなが、

ゴミをしっかりひろって、もちかえることで、海や川を大切にしていけることが、大じだと思えました。



低学年部門

佳作

おいしくそだったわたしのピーマン

南砺市立利賀小学校 一年

城岸^{じょうがん} 梨央花^{りおか}

わたしは、学校でピーマンをそだてました。
「大きいピーマンになってほしいな。」とおもって、な
えをうえました。

はやく、大きくなってほしかったので、いっしょう
けんめいに、水をあげたり、ひりょうをあげたりしま

した。

ピーマンのなえは、大きくなって、たくさんピーマ
ンがなりはじめました。でも、なんこかは、くろくなっ
てしまいました。おばあちゃんやちいきのかたにきく
と、びょうきということがわかって、しんぱいになり
ました。だから、まい日、「びょうきがなればいい
な。」と、ようすをみて、おせわをしました。

ピーマンは、げんきになって、たくさんとれました。
ぜんぶで、六十七こもとれました。

いえにもってかえると、

「みせに、うっているピーマンより、いろがこくて、
おいしそうだね。」

と、かぞくがほめてくれました。

そして、おかあさんが、ピーマンの中に、おにくを
いれてやいてくれました。わたしのピーマンは、やく
と、とてもあまかったです。

じぶんの力で、がんばってお世話をしたから、こ
なにおいしくなったのだとおもいます。がんばって、
よかったです。



低学年部門

佳作

ばいじやこさんとごみひろい

滑川市立西部小学校 一年

樋口 ひぐち
和羽 かずは

かぞくで、うみにいくことがよくあります。

だけど、すなであそんでいるときに、ごみをはっけんすることがたくさんあります。わたしは、きたない

なとおもって、あそびたくなくなってしまいます。そして、わたしは、とてもかなしくなります。きつとうみやすなも、よごれてかなしいきもちだとおもいます。

ばいじやこさんが、なめりかわのうみを、そうじするときいたので、わたしも、さんかすることにしました。すなはまには、ごみがたくさんおちてきたなかつたです。とくに、はっぱうすちろうるのごみを、たくさんひろいました。ぺつとぼとるや、おさけのあきかんが、すなのなかのところに、たくさんうまっていて、びっくりしました。みんなで、ごみをひろうと、あつというまになくなってきれいになりました。

ばいじやこさんとのごみひろいは、たくさんゆるきやらがいて、たのしかったです。わくわくしながら、

ごみを見つけました。ばいによこさんと、うみをたん
けんしているみたいでした。

きれいになったうみは、うれしそうにみえました。



* 中学年部門 *

最優秀賞

山や海での活動を通して感じたこと

富山市立熊野小学校 三年

成瀬 太一
なるせ たいち

ぼくは、おじいちゃんといっしょに、さん歩や登山を楽しんでいます。これまで、森、山、川ぞいなど、いろいろな所につれていってもらい、歩きました。歩くのは、とても楽しくてわくわくします。同じ所にく

り返し行っても、見ごろの花がさいているなど、植物のへん化を見つかったり、その時どきで、ちがっていたりするので、あきません。

今年の秋は、黒部ダムを見に行きました。ダムは、ものすごいいきおいで水を出していました。ロープウェイから見ただけしきは、とてもきれいでした。色とりどりにこう葉した、ブロッコリーのように、こんもりした木が、一面に広がっていたのです。黄、緑、だいたい、赤、うすい色もこい色も、あってあざやかでした。

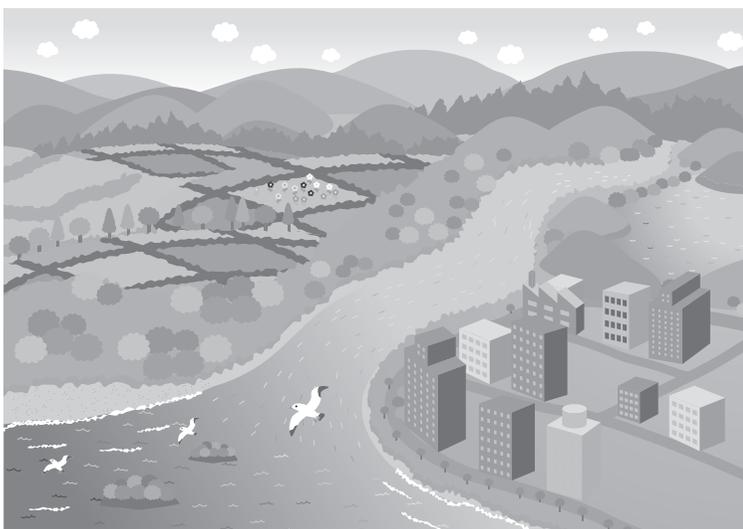
ぼくは、かく地でのせいそう活動にさんかしています。ぼくの住んでいる地いきには、あまり目立ったゴミはなかったのです。うれしかったです。でも、と山えきのまわりはゴミだらけで、がっかりしました。海水よく場では、流木といっしょにゴミがたまっています。たまたま流れてきたかもしれないと思いましたが、

ここですてたのだろうか、と思うものもありました。すてていった人たちも、海を楽しんだのだと思います。それなのに、なぜ自分が楽しんだ海を、よごしていくのか分かりません。よごれてあぶない海では、楽しめないのです、やめてほしいと思います。

また、立山の植じゅ活動にもさんかしました。ドングリのなる木を植えました。ぼくが大人になるころには、りっぱな木になるといいなと思います。今まで、ぼくは、木が森になって、山がゆたかになるところとしか、考えていませんでした。でも、その日、山にゆたかな森があることで、ゆたかできれいな水がうまれて、川そして海へ流れ、海のいきものたちに、とてもよいことなのだと教えてもらいました。

ぼくは、みんなつながっているんだなと気づきました。そして、このつながりをつくっているのは水です。木を育てるのも、ぼくたちがおいしく食べるごは

んも、楽しい山や海も、全てに水がかん係しています。きれいな水のつながりをまもりたいなと思いました。



* 中学年部門 *

優秀賞

大好きな氷見の海を守るため

氷見市立窪小学校 四年

石原 悠希
いしはら ゆうき

私は朝起きると、まず、最初にまどから見える海をながめます。なぜなら、氷見の海は、私に元気と勇気を与えてくれるからです。

ずっときれいな海でいてほしいので、毎年、海岸清そうのボランティアに参加しています。清そうした後

は、きれいになるのですが、台風や大雨のたびに、大量のごみが海岸をうめつくします。特に、昨年ほどく、ごみの量が多すぎたため、今でも海岸に残っています。そして、よく見ると、大きなごみだけでなく、砂つぶくらい小さなプラスチックや、発ぼうスチロールのは片もたくさんありました。これらを全部拾い集めるのは、不可能です。プラスチックが発見される前の時代の、ごみ一つ無いきれいな海岸を、もう見ることはできないのかと思うと、とても悲しい気持ちになりました。

でも、悲しむだけでは何も変わりません。年に一回の海岸清そうでまん足せず、もっと何かできないかと、今からできることを考えました。ちようと学校で、「ごみのしよりと利用」を勉強したところだったので、私なりに、3Rに取り組んでみようと思いました。

①むだなものや使い捨て商品を買わない、②今持つ

ているものは最後まできちんと使い切る、③ごみはちゃんと分別して、プラスチックよう器は、きれいに洗ってリサイクルに出す、の3つの約束事を、これからずっと守るようにします。

私たちのまわりはたくさんプラスチックであふれていて、それらを使わないようにするのは、もう無理だと思います。私たち人間が便利になる一方で、地球をひどくよごしていることを知り、心が苦しくなりました。私が3Rに取り組んでも、すぐに氷見の海岸はきれいにならないし、広い氷見の海からすると、とても小さなことです。それでもまずは、できることから始め、今から始めてもおそくないと信じて、3Rに取り組みます。

本やインターネットで調べてみると、氷見だけでなく、世界中の海がプラスチックでよごされ、多くの生き物が苦しんでいました。一方で、私のように、海を

きれいにしたいと考える人がたくさんいて、プラスチックを使わない方法や、海からプラスチックを取りのぞく方法を考えたりしていました。仲間ができたよ
うで、私の気分は、明るくなりました。

しょう来、私は研究者になり、氷見の海はもちろん、世界中の海をきれいにしてみたいというゆめが、一つ
できました。プラスチックでよごされた海を見るの
は、私の時代で終りにしたいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

ぼくの大すきな場所

射水市立太閤山小学校 三年

谷^{たぐち}□ 陸^{りく}

ぼくのおじいちゃんの家は、山にあります。ぼくは、そこにいくのが大すきです。こん虫がたくさんいて、クワガタやカブト虫、オニヤンマとかをつかまえることができるからです。へびやイノシシも、はじめで見ました。それから、川の水がきれいで、ごみが一

つもおちていません。とうめいで、きらきら光っています。ぼくは、妹と川に葉っぱをながしてあそぶのがすきです。

ぼくのお父さんが子どもだったころは、もっともつと、たくさん虫や動物がいたそうです。今は、虫や動物だけではなくて、人もへったそうです。田んぼも畑もへってるって聞きました。だれもすんでいない家が多くて、わかい人や子どもは、ほとんどいないそうです。だから、ぼくがあそびにいくと、すごくよろこばれ、近所の人に声をかけられます。みんな友だちのようなところですよ。だから、ぼくは楽しいし、お母さんに、「あぶない」とか、「走るな」とか、「大声ださない」とか、そんな風におこられることがあります。すきなだけ走って、大きな声でさわいで、思いつきりあそぶことができます。でも、「イノシシがくるからきをつけて」とか、「用水に近づくな」とか言われる

ことがあるけどね。

ぼくは、ニュースで、山の木がたくさん切られて、山にごみがすてられているのを見たことがあります。それを見て、ぼくは、いやだなと思いました。だって、虫たちが、きたなくてすめなくてかわいそうだし、たくさんの動物が、こわくてにげていってしまふから。ぼくだって、ごみの中にすみたくないし、大きなきかいで、木がなくなっていくのを見たらこわいし、きっと、虫たちもいっしょだと思う。えさがなくなっておなかへるだろうし、ぼくはたくさんたべるから、ぼくが虫だったら、きつとおなかへって、うごけなくなってしまうと思う。

そうならないために、きれいな山や川を守るために、できることは何か、お母さんから考えるように言われた。ぼくは考えた。ぼくにできることはあるかな…ごみを拾ったり、おじいちゃんの田んぼの手つだい

をしたり、あとは、つかまえた虫をにがす、川でおっこをしない、これくらいしか思いつかない。でも、お母さんは、「少しのことでもいい」って言っていた。少しのことかもしれないが、それがつかまかなくなって、山や川を守ることができると、そしてきれいな山や川をすきでいることが大切だと思った。



* 中学年部門 *

優秀賞

じん通川について考える

富山大学人間発達科学部附属小学校 三年

山崎 雅将
やまざき がしやう

ぼくは、学校の帰り道に、じん通大はしを通過して帰る。はしをわたっているとき、川はいろんな表じょうをしてくる。晴れた日の川の様子は、ぼくの友だちみたいだに、
「じゃあね、また明日。」

と、にこにこした様子で、やさしく話しかけてくる。ぼくも、安心してはしをわたって帰る。しかし、雨がふるとその様子が変わる。川は、お化けにへん身して、ぼくをにらみつけて、食べようとしている。ぼくはこわくなって、早足ではしをわたって帰るのだ。

じん通川の、大きな水がいを調べてみた。一九一四年（大正三年）に、大きばなこう水がおきている。ひがいは、死しや五十四名、行方ふ明しや六十名だった。その後も、何でもこう水がおきているが、ひがいは、じよじよに小さくなっている。しかし、さい近のかんきようへん化によって、大雨によるこう水が全国で見られる。ぼくは今年、「と山市から」と山市こう水ハザードマップ」がくばられたことを思い出した。地図を見ると、じん通川は、じょうがん寺川よりはらんしやすく、こう水になりやすいことが分かった。もし、ひなんしなくてはいけなくなったら、どうしたらいい

か読んでみた。ひなんする時は、長ぐつがいいと思っていただけ、中に水が入ってぬけてしまうので、ひもでしっかりしめられる運動ぐつをはくことや、両手を使えるように、に物はリュックサックの中に入れて、雨合羽を着てひなんすることを知った。日ごろから、ひなん場所も、話し合って決めておくひつようがあると思った。

川は、大切なやくわりがある。ぼくたちののみ水や、田やはたけにもり用されている。家ていや工場のはい水になっていこともべん強した。生活には、なくてはならないそんざいである。去年、ぼくは、自由けんきゅうで、どろ水がろかでのみ水にかわるか、実けんしてみた。身の回りの物を使ってしてみたが、とう明にかわったけど、のみ水にはならずくやしい思いをした。

じん通川は、ぼくたちの生活にはなくてはならない

ものだけど、こう水のようなさいがいや水の事な
ど、おそろしいことも、考えておかなければならない。
ぼくは、やさしくてにこにこしているじん通川がすき
だ。大人になっても、かわらない川でいてほしいと思
う。



* 中学年部門 *

佳作

自然の働き

高岡市立定塚小学校 四年

橋本 はしもと
詩絵 しえ

私の家の近くには、高岡古城公園があります。毎年春になると、家族でお花見に行きます。

古城公園には、植物がたくさんあります。春にさくさくらは、十八種類あり、約千八百本も植えられています。でも、そんなたくさんさんの植物、だれが世

話してくれているのかぎ問に思ったので、おばあちゃんに聞いてみました。すると、

「古城公園管理事務所の方が、世話をしてくださいよ。おばあちゃんは、ぼ集していたそうじのボランティアに参加したことがあるよ。」

と、教えてくれました。ホームページを見てみると、道具は貸し出しでき、落ち葉はき等のボランティアに、参加する人をぼ集していました。

このような話を聞いて、私は、植物が元気に育つには、人が世話をしてくれているからだけなのかなと思いました。おばあちゃんにそのことを言うと、

「こん虫も関係していて、ハチやチョウ等がみつをすつたときに、足についた花粉がめしべについて、花や実がなるんだよ。」

と説明してくれました。一番おどろいたのは、花粉がめしべに自然とつくことです。おばあちゃんが言うに

は、こん虫がみつをすうとき、自然と足につくから、古城公園に飛んできたこん虫が、植物の花をさかせてくれるそうです。古城公園に行ったとき、こん虫が役立っているのを、初めて知りました。

私は、こんなにたくさん植物があつて、よいことがあるのかなと思ひ、本やインターネットで調べました。すると、一万年から数千万年前、最後の氷河期が終わったとき、日本列島は、その九十パーセントが、森だったということが分かりました。でも、人間がかいしてしまいました。森林が無くなると、地面が砂ばく化してしまいます。エジプトも、昔は緑におおわれていたそうです。

私は、古城公園が、たくさん緑があるすばらしい所だということを知りました。たくさん工夫があることを知って、来年のお花見が、今年よりもっと楽しみにになりました。



* 中学年部門 *

佳作

地球温暖化を止めない！

富山市立鶉坂小学校 四年

山本 芽依
やまもと めい

「ねえ、もうちょっとゲームやらせて！」

とわたしは毎日言っていました。でも、それは、総合で地球温暖化、二酸化炭素のことを習う前のことです。今ではもう、ゲームをする時間は、三十分以下にへっています。ゲームをする時間が、へった理由とな

る話を書きます。

地球温暖化のげんいんは、二酸化炭素、二酸化炭素のげんいんは、電気等です。つまり、ゲームは、電気を使うので、二酸化炭素の出るものになるということです。この前の総合の時間、地球温暖化についての本を読みました。すると、その中に、「地球温暖化のえいきょうで、年々雪が少なくなっている」と書いてあったのです。

わたしは去年、お正月に、おばあちゃんの家遊びにいきました。一つの楽しみとして、雪遊びを楽しみにしていました。ところが、いつまでたっても、雪はふらなかつたのです。それは、今でも心残りになっています。そして、もし、ゲームの時間をへらすだけで、少しでも二酸化炭素がへるし、し力も、悪くなるスピードがおおくなるのなら、これからもへらしたままにしたいと思いました。

また、わたしは、「チャレンジ10」で、「冷ぞう庫のムダなあけ閉めをしない」を、特にがんばりました。その理由は、おなががすいたり、のどがかわいたりすると、すぐに冷ぞう庫をあけて、なにかないかなあと、冷ぞう庫を見てしまうからです。このままだと、冷ぞう庫の冷気もにげてしまうし、電気も使って、二酸化炭素も出てしまうのです。だから、わたしは、「チャレンジ10」で、「冷ぞう庫のムダなあけ閉めをしない」を、特にがんばりました。やってみると、自分で意識できるから、二回目の「チャレンジ10」では、六日間、全て二じゅう丸でした。意外とかんたんにできたから、これからも、自分で意識して、続けていきたいです。

地球温暖化のえいきょうで、夏は去年より暑く、冬は雪があまりふらないじょうきょうになってきています。ニュース等を見ると、去年よりも、今年の方が熱

中しょうの人が多くなっていることが分かります。「十年」、いや、「二十年」たったら、地球はどんなことになっているのか。

未来のことを考えると、やはり、地球温暖化を、止めなければなりません。少しでも多くの二酸化炭素をへらせるように、家族や親せきにも、協力してもらおうと思います。



* 高学年部門 *

優秀賞

立山の自然にふれて考えたこと

射水市立太閤山小学校 六年

山本 やまもと 佳歩 かほ

今年は、新型コロナウイルスの影響で、学校で行く予定だった立山登山に行けなかったので、先日、家族で立山に登りました。

立山は、多くの自然に囲まれていて、とても奇麗でした。絶滅危惧種とされている、ライチョウが、もし

かして見られるかも、と、とても楽しみにしていました。しかし、残念ながら、ライチョウは見る事ができませんでした。

このことから、なぜ、ライチョウなどの動物や植物などが、絶滅危機になってしまったのかについて、興味を持ち、考えることにしました。

調べてみると、大きな原因の一つは、暖冬による異変があることが分かりました。温暖化で積雪が減ってしまったことで、イノシシやニホンジカが、食草を求めて高山帯に移動し、ライチョウの餌となる、高山植物を食い荒してしまったというのです。温暖化は、繁殖力の強いイノシシや、シカの増加を後押しするため、小さくて可憐なライチョウたちの生活を、おびやかしているのです。

つまり、自然のバランスは、一つ崩れると、他の生き物全てが影響を受けてしまい、この変化に対応でき

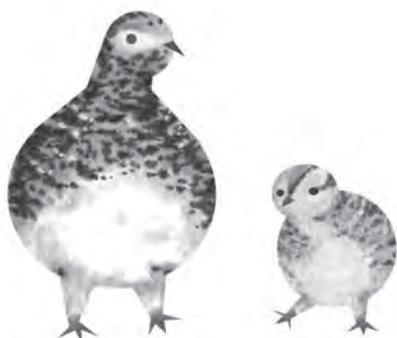
る生物だけが残っていきけるのです。

もう一つ、立山で新たに発見したことがありました。それは、国内では、最も標高の高い場所の水洗トイレが、立山一ノ越(二・七〇〇メートル)にあったことです。汚染処理をして、きれいになった水を、再び洗浄水として、利用するこのシステムは、とても先進的で、全国でも注目を集めています。最初は、どうして、トイレをするのに、お金がかかるのか不思議に思いましたが、快適にトイレを利用し、環境を守っていくためには、大切なことだと思いました。

私は、この登山を通して、温暖化や、環境保全について、今まで以上に深く考えるようになりました。また、温暖化も環境の悪化も、勝手に起こるものではなく、必ず原因があります。一人一人が便利さだけを求めずに、小さな心がけでも継続して、家族や友人と声を掛け合いながら、私たちが出来ることに取り組んで

いくことが一番大切だと思います。

どんなに小さなことでも、いずれは世界を救うカギになると思うので、自分に出来ることをやるだけやりたいです。



* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病を学び、考えたこと

富山市立藤ノ木小学校 六年

安積あづみ 悠翔ゆうと

もう、こんなにおそろしい病気は二度とはやらせてはいけない。ぼくは、そう強く思いました。そのきっかけは、去年の社会科見学で、初めてイタイイタイ病資料館に行ったことです。

この病気は、体が激しく痛み、ほんの少しつまずい

たり、転んだりしただけでも、骨折してしまうというものでした。また、この病気は、一度かかると治らない「公害」だということも知りました。資料館で患者の骨の模型を持ったとき、あまりの軽さに驚きました。骨折を繰り返して、身長が約三十センチメートルも縮んだ人の写真を見たとき、ぼくはさらに驚きました。患者が、「いたい、いたい」と泣きさけんでいたことを想像し、胸がつぶれそうになりました。

その後、さらに、イタイイタイ病について詳しく知りたいと思い、家族ともう一度資料館に行きました。展示物をよく見てみると、患者の多くは、子供を産んだ経験がある三十代から五十代の女性だということが分かりました。もし、ぼくが明治時代に生まれていたら、お母さんがこの病気にかかっていたかもしれないと思うと、悲しい気持ちになりました。

この病気の原因は、神通川の上流にある、神岡鉱山

から流される「カドミウム」という体に悪い鉱毒です。

住民、原因となった企業、行政の協力で、今では神通川のカドミウムの濃度は、国の決めた基準値を大きく下回り、清らかで、安全な流れを取り戻しました。

しかし、ぼくたちの生活を今でもおびやかす環境問題があります。

それは、海洋中のマイクロプラスチックが生態系に及ぼす影響です。例えば、ウミガメやクジラのような生物が、漂流するプラスチックごみを食べて死んでしまふ事例があります。この問題は、イタイイタイ病にとても似ていると思います。そして、このままではイタイイタイ病のような健康被害が出るのではないかと感じます。

このような環境問題に取り組んでいく上で、ぼくができることは、「3R運動」の実践です。この運動は、ごみを減らす「リデュース」、繰り返し使う「リユ-

ス」、再資源化する「リサイクル」の三つのことです。

ぼくの家庭では、ペットボトルを使わずに水筒を使ったり、シャンプーなどは詰め替え品を使ったりする「リデュース」と、牛乳パックやトレーを分別して、リサイクルボックスに入れる「リサイクル」に取り組んでいます。ぼくが、これからも3R運動を続けることで、周りの人にも環境問題に関心をもってもらうことができると考えます。今後、イタイイタイ病のような公害が起きないように、一人一人が環境を守るという意識をもつことが大切だと思います。

神通川の清流や水田の風景など、これからも、ぼくが大好きな富山の豊かな自然環境を、みんなの力で未来に残していきたいです。

* 高学年部門 *

佳作

生き物の気持ちも考えて

南砺市立利賀小学校 五年

松木 英美

私の住んでいる利賀村は、自然豊かな地いきです。春はずすしく、うぐいすの声がよく聞こえます。夏は、山が青々として、とてもきれいです。また、カモシカやイノシシなどの動物が、たくさん出てきます。秋は、こう葉が美しく、くりのイガがたくさん落ちています。

冬は、たくさん雪がふり、多い年で、三メートルも雪が学校のグラウンドに積もります。その雪が、春になると、たくさん雪どけ水となり、川に流れていきます。だから、利賀村の水が豊富です。さらに、川の水は、底が見えるくらい美しく、きれいな川にしか住まないと言われていた岩魚がたくさんいます。そんな美しい利賀の自然かん境なのに、私は少しおどろいた経験をしたことがあります。

私は、夏休みに、海へ遊びに行きました。そのときに、砂はまにゴミがたくさん落ちていました。そのゴミを見た私はびっくりしたし、海に住んでいる生き物が、かわいそうだと思います。そこで、ゴミによる生き物へのひ害と、ゴミをなくす取組について調べました。

まず、生き物へのひ害について調べました。みなさんは、ペットボトルやビニールぶくろなど、

町で発生したゴミが、海洋ゴミの八割をしめていることを知っていますか。

その中のビニールぶくろを、えさとまちがえて、クジラが食べてしまうということがありました。しかし、ビニールぶくろは、消化されないため、胃の中が、ビニールぶくろでいっぱいになってしまします。他にも、カタクチイワシが、マイクロプラスチックというものを食べてしまうというひ害がありました。マイクロプラスチックとは、プラスチックゴミの九十パーセントがリサイクルされないまま海に流れて、し外線や、海流などで小さくなったものです。この現象を知って、悲しい気持ちになりました。しかし、ポイすてをしてる人は、なにも思わず捨てているから、この現状を知ってほしいと思いました。そして、ゴミをなくす取組について調べました。

みなさんは、プラスチック・スマートという言葉

知っていますか。

これは、ウェブサイトやSNSを通じて、プラスチックとかしこく付き合うための、アイデアをしようかしている取組です。他にも、海ゴミゼロウィークという取組もあります。これは、各地いきで海岸を清そうする取組です。

被害の現状やゴミを減らす取組を知り、私は、川や海にゴミが捨ててあつたら拾い、できるだけ、生き物へのひ害をなくしたいと思いました。また、ポイ捨てする人がいなくなればよいと思いました。その第一歩として私には、学校内に海洋ゴミが生き物にもたらすひ害や、ポイ捨て防止についてのポスターをはり、よびかけをすることができると考えました。

私は、生き物が楽しく安全にくらすことができる、きれいな海になればいいと思います。

The background features several overlapping, wavy, light gray lines that create a sense of movement and depth. These lines are centered horizontally and extend across most of the page width.

清流環境科学賞

低学年部門

最優秀賞

カナヘビ

富山市立山田小学校 一年

高堂 柊水
たかどう しゅうすい

「にがしてあげなさい。」

「でも、かいたい。」

「だめだよ、やせいだから。」

おうちのうらがわでみつけたので、ぱっとつかまえてきたカナヘビです。

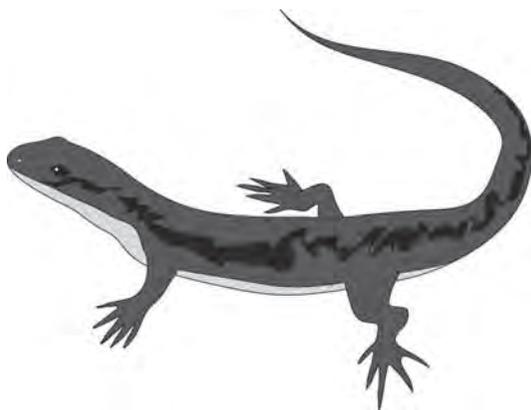
くさむらにいました。カナヘビは、こわがっているみたいに、すつとにげようとしたとき、ぼくが、りょうてをろうやみたいにして、ぱっとつかまえました。てにすきまをつくって、みぎで、カナヘビのはらをつかまえて、もちあげました。てとあしをばたばたさせていました。つかまえてうれしかったけど、にがしなさいといわれたので、かえません。

いけのちかくでにがすと、ひゆるひゆるひゆるっと、くさむらに、はいつていきました。

カナヘビは、はちゆうるいです。たべものは、トンボと、カト、アブです。えさをしたでまきつけて、のどまでおくります。そしてのみこみます。だから、こんちゅうのいっばいいるくさむらにいるらしいです。それに、カナヘビは、てとあしとっぽを、くねくねととうごかしておよぎます。からだにうろこがあるの、みずもへいきです。

ぼくのいえのうらは、かっこうのえさばです。かえ
なかつたけれども、またげんきなカナヘビをみるこ
ができます。

たくさんたべて、げんきでいてね。ぴかぴかのうろ
こをみたら、またつかまえるよ。



低学年部門

優秀賞

たぬきのあかちゃん

富山市立山田小学校 一年

松田^{まつだ}明莉^{あかり}

「あかりちゃん、たぬきのあかちゃんがいるよ。」
と、おかあさんがおしえてくれました。わたしは、じてんしゃにのっていましたが、きゆうにいわたので、じてんしゃをたおして、たぬきをみにいきました。うめのきのしたで、おかあさんたぬきと、5ひき

のあかちゃんは、ごろごろしていました。

あかちゃんは、おかあさんにだきついています。おかあさんといっしょにうれしそうにしています。わたしもおかあさんにだっこされたら、うれしいです。たぬきのおかあさんも、「このこたち、かわいいな」とおもっているかおです。わたしがあかちゃんるときも、みんながかわいがってくれました。たぬきのあかちゃんたちは、あっちにいたり、こっちにきたりしてあそんでいます。

それから、おかあさんたぬきは、たべものをとりにいったらしく、あかちゃんたちは、およろこびでたべていました。たぬきのあかちゃんたちが、はぐれなように、うしろからみまもったり、ほっぺたですりすりしたりしていました。みんな、うれしそうにしています。

おひるには、どこかへいってしまいました。

「やまのなかにかえったのかなあ。」

と、おかあさんがいました。

ばあちゃんとかさむしりしているときに、たぬきを
一ぴきみました。おおきくなっていたので、よかった
なあとおもいました。



低学年部門

優秀賞

つばめ

富山市立山田小学校 一年

山藤 やまふじ
実苑 みその

きょう、きょうとうせんせい、ランチルームで、つばめをそとにだそうとしていました。わたしがみにいくと、ランチルームのうえのまどにとまっています。わたしをじっとみているようなかんじです。こどものつばめみたいです。

「はやくおうちにかえりたいだろうな。」

「うんどうひろばでうまれて、おかあさんについてとんでいるうちに、ついていけなくなって、まいごになっ
たかな。」

「がっこうがおうちだとおもってはいいんだけど、おかあさんがいなくて、びっくりしただろうな。」

「はやくおかあさんにあいたいだろうな。」

わたしは、はやくそとへだしてあげたいとつよくおもいました。

あとから、きょうとうせんせいにきくと、一じかんくらいかかったそうです。つばめは、だんだんつかれてきて、どんどんひくく、とぶようになったそうです。でも、ちゅうがっこうのかいだんの三かいのまどから、やっとそとへでたそうです。

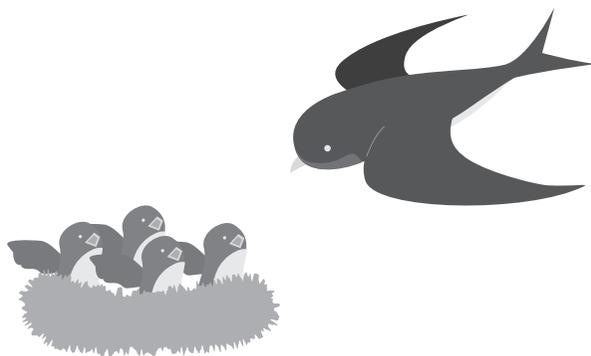
「やっとかえれたね。」

「おかあさんとあえたかな。」

「たのしくとべたかな。」

「もう、まよわないでね。」

がっこうでうまれたつばめだから、たいせつにしたいです。がっこうのなかにはいってきたら、すぐにだしてあげたいです。



低学年部門

佳作

ストップ・ザリガニ！

富山市立芝園小学校 一年

角谷 かくたに 春葵 はるき

にちようびに、いもうとや友だちといっしょに、近くの池で、ザリガニつりをしました。水の中から、外にもちあげるときに、おちてしまって、むずかしかったけれど、たくさんつれました。雨がふっていました。が、バケツに二十ぴきくらいつれて、たのしかった

です。

いえにかえって、インターネットで、ザリガニのことをしらべてみました。

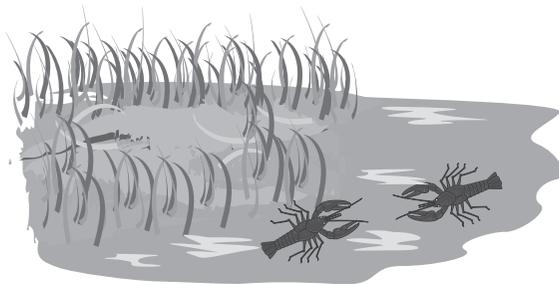
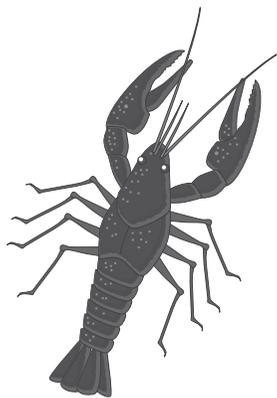
ザリガニは、アメリカからきた、がいらいせいぶつで、せいたいけいに、大きなひがいをあたえているそうです。ザリガニは、川や池や田んぼにいて、こん虫や水草など、なんでもたべてしまいます。そして、そこでくらしている、生きものたちの家を、うばってしまいます。

ザリガニをころすくすりをつかうと、ほかの虫たちも、しんでしまうそうです。だから、ザリガニをかつている人は、外にはなさないでくださいと、かいてあります。

ザリガニのことをくわしくして、びっくりしました。人間のかつどうによって、生きものかすが、ふえたりへったりして、せいたいけいのバランスが、くず

れることがわかりました。ぼくが、いつもあそんでい
る池で、こんなことがおきているとかんがえると、す
こし、こわくなりましたが、このことを、ほかの友だ
ちにもおしえてあげたいと思いました。

みんなできょうりよくして、いろいろな、どうぶつ
やしよくぶつが、くらせる山や川をまもっていきたい
です。



* 中学年部門 *

最優秀賞

水のせいしつ

高岡市立定塚小学校 四年

本保^{ほんほ} 萌衣^{めい}

わたしたちが、朝起きて、顔を洗ったり、手洗いやうがいをしたり、飲んだりする水は、自由に形を変えられます。コップや湯飲みに入れたり、流したりできます。水は、においや色がなく、何の栄養もありません。人間や動物、植物にはとても欠かせないもので

す。例えば、人間の体重の約六十から七十パーセントは水だからです。動物や植物もそうです。

水が必要とされているのは、その性質が関係しています。水の性質の一つ目は、形をすぐに変えられることです。まるで、忍者のようにすがたを消し、役者のようにすがたを変えられます。だから、いろいろな場面や場所で使うことができます。とても便利なものだと思います。

二つ目の性質は、水は、運ぶ役割をしているということです。人間は、食べ物を食べなければ生きられません。その食べ物の栄養や体に役立つものを、水が溶かして、血液として、必要なところに運びます。それだけでなく、水は、ばい菌などから体を守るリンパ液となつて、体をめぐっています。水は、運ぶだけでなく、体の中の悪いものや、いらなくなったものを溶かして、汗などになつて、体の外に出しています。水は、

まるで料理人のように、大事な栄養を食べやすくして、体に運んだり、医者のように、病気を防いだりしているなと思いました。

水の三つ目の性質は、地球の天気に関係しているということです。雲を作っている水や氷のつぶは、大きく重くなると、空に浮かんでいることができなくなり、雨やひょう、もしくは雪となってふってきます。理科の学習でも勉強しましたが、日中は、太陽が地面をあたため、水が水蒸気になります。太陽がしずんで、夜になると、寒くなります。しかし、地球をつつむ空気の中には、日中、太陽の熱をたくさんたくわえた水蒸気があります。その水蒸気が、水や氷のつぶとなり、雲となって地球を取り囲んでいます。だから、水は、日中はまるでクーラーのようになり、夜は温かいふんのように地球をつつんでいます。

このように、わたしたちの生活を守ってくれている

水の性質についてよく知ること、水を上手に生活に役立てながら、生きていくことが大事だと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

畑から来たすてきなお客さん

富山市立四方小学校 四年

河西かわにし 雅心まご

わたしは、五月に、おばあちゃんの畑からキャベツをもらいました。そのキャベツには、アオムシがたくさんついていました。わたしは、「はらぺこあおむし」のお話を思いだし、自分でアオムシを育てることにしました。

わたしは、キャベツの葉からアオムシをとり、十ぴきぐらい虫かごに入れました。キャベツの葉は、毎日新しいものにとりかえました。はらぺこあおむしのように、わたしのアオムシも、キャベツの葉を食べて、どんどん大きくなりました。体の色も、キャベツと同じ色になっていきました。ふんは、こい緑色でした。

わたしは、毎日、アオムシを見るのが楽しみになりました。キャベツの葉をとりかえるときは、いつも、「早く大きくなあれ。」と声をかけました。

何日かたつたころ、急に、アオムシが、あまりキャベツを食べなくなりました。よく見ると、アオムシが、虫かごの上の方になんびきも上っていました。わたしは、「どうしたのだろう。」と少し心配になりました。どうしてそんなことをするのか分からなかったけれど、次の日、そのわけが分かりました。アオムシは、さなぎになるじゅんびをするために、上に上っていた

のです。その後、のこっていたアオムシも全部さなぎになっていきました。さなぎになると、全然動かなくなりました。わたしは、「今はねむって、チョウになるじゅんぴをしているんだな。うまくチョウになれるといいな。」と思いました。

さなぎになって何日かたったある朝、さなぎは、チョウにへんしんしていました。「はらぺこあおむし」のお話のように、アオムシが、本当のチョウになるすがたを見ることができて、とてもうれしかったです。そして、毎日キャベツをあげたアオムシが、元気に大きくなって、きれいなチョウになったことがうれしかったです。

虫かごのふたを開けると、チョウは、外へ飛んでいきました。家の木の上をぐるぐると飛び回りました。わたしは、「元気だね。残りのチョウも飛んでいくからね。待っていてね。」という気持ちで見送りました。

わたしには、チョウが「ありがとう。」と言って、飛んでいったように見えました。

わたしは、「がんばってアオムシのお世話をしてくれたな、そして、無事にチョウになって元気に飛んでいってよかったな。」と思いました。



* 中学年部門 *

佳作

世界の川や川にいる生き物

高岡市立定塚小学校 四年

富永 とみなが
蓮生 れん

「水はどこからくるの。」

「水はどうやってきれいになるの。」

社会科の時間に、ぼくは、水の勉強をしました。その時に、ぼくたちの飲み水は、川から来ていることを知り、川に興味をもつようになり、様々な本を読んでみ

ました。そこで、世界の川の本に出会いました。

世界の川は、色も形も様々です。例えば、大きな川や、不思議な色をした川があったり、日本にはいないような生き物が、生息していたりする川もあります。

また、日本のように、きれいな水ばかりではなく、よごれた水が流れている川もあり、そのような川の近くに住民の飲み水は、大丈夫だろうかと心配になります。

川にいる生き物も世界で様々です。にごった黄色い川には、ナマズなどの仲間が、白く冷たい川には、マスの仲間がいるそうです。生き物は、自分に合ったかんきょうを、選んでいるのだなと思いました。世界で最も大きい川であるアマゾン川には、二千種類以上の魚がいるといわれているそうです。危険な魚もいるそうで、とてもびっくりしました。

日本の川は、世界の川に比べると短く、川はぼせまいため、流れが急です。だから、水の入れかえが早

くなるため、日本の川の水は、世界の川に比べて、きれいだそうです。ぼくは、下水処理場できれいにしているからだと思っていましたが、川の流れも関係していることを知り、恵まれた場所にいるなと思いました。しかし、流れが速いため、何度も洪水のひがいにあってきました。今でも、大雨のあとに、川が氾らんしたという話をよく聞きます。それは、川が短く、せまいことも関係しているそうです。恵まれているところもあるけれど、大変なところもあり、どこへ行っても、人間は知恵をしぼって、川の水を使って生活しているのだなと思いました。

このように、ぼくは、川のことを調べて、たくさんおどろくことができました。そして、川や、川の生き物がとても好きになりました。世界中、どこでも、川の水を生かして、安心して生活できるといいなと思いました。また、川の生き物も、その生き物に合った川

の中で、気持ちよく生活してほしいなと思いました。そのために、ぼくは、川の水を守っていききたいです。



* 高学年部門 *

優秀賞

身近な水と食の大切さ

富山市立速星小学校 六年

今川 いまかわ
絢寧 あやね

みなさん、水は生活に欠かせないものですよね。富山の水はきれいでおいしいと評判です。そんな水と食の安全について考えたことがあります。それは今、安心・安全に水が飲める、食べ物を食べられるということが当たり前ではなく、感謝しなければならぬこと

だということですよ。

もし、私たちが川の水を使うとしたら、体に害のある物質が残っていないことを、どうやって確かめられるでしょうか。実際に、富山県では、高度経済成長を迎えたときに、神通川上流にある神岡鉦山からカドミウムが流失し、川や農地を汚染しました。その水を飲んだ人や、川の水を使って育てた作物を食べた人たちに、イタイイタイ病が広がり、多くの人を苦しめ、多くの人の命を奪いました。

現在の私たちも、身近にある川の水や地下水を使って生活しています。その水を使って、米や野菜を育てたら、百パーセント安全だと、どうして言い切れるのでしょうか。こう考えると、いつ自分が危ない目に合うかわからない中、自給自足の生活をしていくのは、とても不安なことではないでしょうか。

他にも、世界には、家から何キロメートルも離れた

ところまで、水を汲みにいかなければならない人や、水不足で、作物が十分に育てることができないため、最低限の栄養が取れず、成長に影響が出てしまう人等、水と食に対する不安を抱えている人々が多くいます。

現在の日本では、毎日、当たり前のように、ご飯を食べたり、きれいな水を飲んだりしていますが、それは、すごく素晴らしいことだと思います。私たちは、これから、「水」について、もう一度考え直し、安心・安全に生活できていることに、感謝していかななくてはならないと考えるようになりました。

そこで、私たちには、次の二つの取組が大切ではないかと考えました。

一つ目は、「無駄な水の使用を減らし、水を汚さない」ことです。富山は、水が豊かで少しくらい無駄使いしても困らないと思いませんか。水は使えば使うほど汚れ、その水が溜まっていつてしまいます。

二つ目は、大切に水を使うために、「食べ残さないだけでなく、残るほど料理を多く作らない」ことが大切だということです。残るほど多く作ると、料理をした時に、無駄な水が増えてしまうからです。また、作りすぎると、育てるためにも多く水を使用するので、環境にも負担がかかってしまいます。

だから、私は、日頃から水の存在に感謝するとともに、使い方を意識して、限りある資源を大切に使うことを心掛けて生活していきたいと思えます。

* 高学年部門 *

優秀賞

環境問題について考えよう

富山市立宮野小学校 五年

辻つじ 奏かなで

私が環境問題について書く理由は、これから環境問題を起こしてほしくないという思いからです。

まずは海についてです。人は海にいる魚を食べることで生きています。それなのに、人はプラスチックゴミなどと生きています。たくさんものを流しています。そ

したら、魚はそのゴミたちなどに環境をよごされて、すみにくくなってしまいます。人は魚を食べているのに、人はその海をよごして、魚にすみにくい環境にしているのは、ゆるされないと思います。

次は、地球温暖化についてです。地球温暖化でいったいなにがおきているのか、調べました。地球温暖化とは、地球の大気があたたかくなり、気温上昇する現象です。地球には、一年じゅう、それほど気温のかわらない地域もあれば、日本のように、一年周期で気温が大きく変化する地域もあります。そうした、世界じゅうのさまざまな地域で、はかった気温をもとにして算出した世界平均気温によると、地球の温度は、十五度くらいになるそうです。世界の平均気温は、千九〇六年から二〇〇五年までの百年間に、〇・七四度上昇していることがわかっています。一度にも満たないわずかな変化ですが、これは、たいへんな数字だ

ということですが。このわずかな変化のために、北極、南極の氷の減少や海面の上昇、各地での異常気象など、すでに、さまざまなえいきょうが出はじめているからです。今後、さらに心配なのは、近年になるほど、平均気温の上昇する速度がはよくなっていることです。

このままだと、将来、たいへんないきおいで温暖化がすすみ、地球環境が大きく変化するかもしれないと心配されています。地球は、太陽の光であたためられ、同時に、地表からその熱を宇宙空間に放出しています。そして、地球をとりまく大気中にふくまれる、メタンや二酸化炭素などを、温室効果ガスといいますが、そのおかげで、地球の平均気温は、十五度くらいに保たれ、生物のすみやすい適度な環境がととのえられていくのです。もし、温室効果ガスがなかったり、効果が強すぎたりしたら、地球上の生物は、生きていくのがむずかしくなってしまうのです。

環境問題が起こるといことが、悲しいことだと思います。地球温暖化がすすむと、地球が終わってしまうかもしれない。海の魚が死んでとれなくなってしまいかもしれない。とても悲しいことです。だから、海には、プラスチックなどといったごみを流さないでほしい、地球温暖化にかかわることをしないでほしいです。これからみんなで環境問題をなくしていきたいです。



* 高学年部門 *

佳作

世界の水の安全性について

南砺市立利賀小学校 六年

南田 みなみだ
陽祐 ようすけ

ぼくは、CMや本で、世界には、水の確保と安全性に困っている人がいることを知り、しようげきを受けました。そこで、世界の現状をくわしく調べることにしました。世界では、十人に三人が水の確保に困っていて、ジンバブエという国では、水をくむのに三十分かかるそ

うだ。また、水の確保ができて、お染された水を飲まなければならぬ国もあり、毎年、八万人以上の人が亡くなると推定されている。さらに、病院があつても、水が不足しているため、薬が作れないという話を聞いたこともある。この現状から、「自分には何ができるのか。」「世界はこの現状を解決する方法を考えているのか。」ということが気になった。そこで、利賀小の現状から、自分にできることを探ってみることにした。

まず始めに、小学校の児童と先生に、水についてのアンケートをとった。その内容は、

- ①利賀小で、水が出しっぱなしになっているところを見たことがあるか。
- ②水の出しっぱなしについてどう思うか。
- ③世界には安全な水を飲めない人がいることを知っているか。

④安全な水を飲めない人たちに何ができると思うかの四つである。

そのアンケートから分かったことは、水の出っぱなしを見たことがあるという人が、十二人中十人ととても多いということだ。利賀小では、じゃ口をしっかりしめないことが、たびたび起きていることが分かる。その原因の一つは、じゃ口を最後までしめないことだと思う。したがって、②の質問に対して、「水の出っぱなしはもったいない」と答えた人が多かったという結果から、みんなで、「もったいない。」と声をかけ合えばよいと思う。もう一つは、「水は限りある資源」ということが、広く知られてないということが考えられる。なぜなら、利賀小では、二人が、世界には安全な水を飲めない人がいることを知らなかったからだ。

以上の結果から、自分にできることを二つ考えた。

それは、「①洗面所に呼びかけの紙をはる。」「②水についてのポスターを作る。」ことである。①の紙については、「じゃ口のしめ忘れに注意してください。」と書くつもりだ。それにより、じゃ口のしめ忘れがなくなると思う。②については、「一日三十円でも人の命が救われます。」と書くつもりだ。これにより、「水に困っている人が、三十円の募金で救われる。」ということが分かってもらえると思う。さらに、この募金活動は、世界が水に困っている人のために行っている活動であることも知ってもらえる。

ぼくは、この活動に、みんなで取り組んでみたいと思った。一人が三十円の募金でも、大勢なら大金になるし、その分、救える命が増えるからだ。ぼくは、多くの人が安全な水をいつまでも飲めることを願う。

* 高学年部門 *

佳作

水俣病について考えたこと

富山市立宮野小学校 五年

宮田 みやだ
侑奈 ゆうな

「なぜ人が亡くなるほど、大きな公害病がたくさん起こってしまうのだろう」。

これは、公害病についての学習を始めたときに思ったことである。わたしは、公害病の中でも、水俣病について調べた。調べていくうちに、水俣病の様々な症

状に悩まされた人々が大勢いることを知った。

水俣病とは、主に、熊本県八代海沿岸で起こった公害で、ビニールの原料のアセトアルデヒドという物質をつくる過程でできる、メチル水銀を摂取することで発症する病である。この病は、新潟県や、鹿児島県でも確認されている。

水俣病の患者は、新潟県や鹿児島の人々も合わせると、二千人以上いる。患者の数で、公害の重さをはかることができるわけではないが、わたしが住んでいる宮野地域で被害が大きかった、イタイイタイ病の患者が約二百人なので、イタイイタイ病の患者の人数の約十倍と、とてもたくさんの方が被害にあったのである。

水俣病の症状は、おおまかに分けて五つある。一つ目は感覚障害だ、手足に、じんじんとするしびれが表れたり、触られた感じがなくなったり、痛みや熱など

を感じにくくなったりする。二つ目は、運動能力の低下、三つ目は聴覚機能の低下、四つ目は、視野が狭くなるなどの視覚障害が表れる。そして、五つ目は、真っすぐ歩けなかったり、服などについているボタンをかけることができなかつたりするなど、体幹のバランスが乱れる症状が現れる。

この情報をふまえて、二千人以上の人々が、様々な症状で苦しんでいたなんて、想像すらできないと思っただ。

これほど大きなのに、複数の場所で広がってしまったのを防ぐことも出来たはずなのに、「なぜ三つの地域で広まってしまったのか」が気になり、調べたところ、一九五〇年代〜一九七〇年代あたりに、公害が多く発生していたことが分かった。急激な開発を行ったことで、有害な物質が排出されてしまったのだろう。そして、当時の法律がそこまできびしくなく、法律を

守っていても、公害が発生してしまう状況にあったのだと思う。大気や水質が汚染されるようになったが、行政は対さくができなかったため、公害が問題としてうきぼりになってしまったのである。

わたしは、当時、日本各地で、公害が起きていたが、その中でも、被害の拡大が著しかった水俣病は、十分な対さくを行わなかった結果、起こってしまったものであり、異なる三つの地域に広まってしまったのだと考える。もし、国が対さくするのがもう少しおそかったら、もっと多くの人々が亡くなっていたのではないか。逆に、もっと国が早く対さくしていれば、亡くなる人や、つらい思いをした人が減っていたのではないかと考えた。

もう二度とこのようなことが起きないでほしいと思っただ。

◆募集要項

★応募対象

富山県内の小学生（1年生～6年生）

★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病について感じたこと、考えたこと
- ② 清流を守ってきた人々の活動と歴史
- ③ 水と人間の暮らしの様子・歴史
- ④ 住んでいる地域の環境、自然について考えたこと
- ⑤ 生き物とのふれあい体験
- ⑥ 山や川・海での体験
- ⑦ 水や食の安全について考えたこと
- ⑧ 教科や総合的な学習の時間等で取り組んでいる環境問題
- ⑨ 個人・地域で取り組んでいる環境問題
- ⑩ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。

★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下の通りです。

小学校1・2年生	4000字詰原稿用紙	本文	6000字以内
小学校3・4年生	4000字詰原稿用紙	本文	10000字以内
小学校5・6年生	4000字詰原稿用紙	本文	12000字以内
- ② 一人1作品とします。
- ③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学校名、学年、氏名（ふりがな）を明記し、本文は4行

目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチキスでとめてください。

- ④ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限りません。
- ⑤ 応募者の情報及び応募作品を主催者において自由に発表することについては承諾していただきます。
- ⑥ 応募は清流会館まで、郵送でお願いします。学校・学級でまとめて応募することもできます。複数名の作品を同封する場合は、応募者名の一覧（学年、題名記載）と担任・担当者のお名前を書いたものを同封してください。応募作品の返却は原則行いません。
- ⑦ 応募期間は2020年7月1日～2020年10月20日とします。

★応募期間

応募期間は2020年7月1日～2020年10月20日とします。

★賞の種類

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| A) 清流環境歴史賞 | 最優秀賞、優秀賞、佳作 |
| B) 清流環境体験賞 | 最優秀賞、優秀賞、佳作 |
| C) 清流環境科学賞 | 最優秀賞、優秀賞、佳作 |
| D) 清流環境奨励賞(がんばって応募してくれた学校・学級) | |
- ※応募する賞を明記する必要はありません。選考委員会で適切に判断します。

★表彰

- ① 小学校1・2年生の部（低学年）、3・4年生の部（中

学年)、5・6年生の部(高学年)の歴史賞、体験賞、科学賞毎に、最優秀賞、優秀賞、佳作を选考します。

② 最優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞(図書カード5千円分)を贈ります。

③ 優秀賞受賞者には表彰状と副賞(図書カード3千円分)を贈ります。

④ 佳作受賞者には表彰状と副賞(図書カード1千円分)を贈ります。

⑤ 清流環境奨励賞を受賞の学校には表彰状と盾、副賞(図書カード1万円分)、学級賞には表彰状と副賞(図書カード3千円分)を贈ります。

⑥ 清流環境奨励賞を受賞の学校・学級へイタイイタイ病に関係した方々(語り部の講話等)を派遣して公害、環境教育のお役に立ちたいと思います。

⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。

★選考

① 作品は清流環境作文コンクール選考委員会で選考いたします。

② 選考結果は2021年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2021年2月を予定しています。

★その他

① 個人情報取扱

応募の際に提供いただく個人情報は、以下に掲げる事項に必要な範囲で使用します。

・本コンクールの運営(外部審査員への提供を含む。)

・受賞作品の発表

・当財団が行う事業全般についてのご連絡

② 応募者は、応募いただいた作文が受賞した場合、当財団が主催、共催若しくは後援する事業、当財団のホームページ、又は当財団が適当と考える場所(富山県立イタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等)において、当該応募者の氏名・所属・受賞作文・受賞した賞の種類を公表すること、及び当該受賞作文を他で公表する場合には「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けた」旨付記し、当該応募作文が掲載された出版物、ホームページ等当財団宛に提出をいただくことについて、応募をもってご承諾をいただくこととします。

③ 受賞作品はホームページからダウンロードできます。

④ 本コンクールの運営の内容、応募者の属性及び応募いただいた作文(氏名、所属等特定の応募者を識別することができると認められる情報)について、大学、その他、当財団が適当と認めた機関における研究及び教育に使用されることがあります。研究・教育利用規約については、下記までお問い合わせください。

⑤ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、当財団のホームページその他の場所において速やかに発表いたします。

⑥ 入賞作品の文集掲載時に、全体のバランスを考え、表記や表現を一部改める場合があります。

2020 年度
第 3 回 清流環境作文コンクール
受賞作品集

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒939-2723 富山市婦中町萩島 684
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2021 年 2 月 25 日

